

ひやくにちせき 「百日咳」について

ワクチンの追加接種が
推奨されています



【百日咳とは】

百日咳は、「百日咳菌による急性の気道感染症」と定義される病気です。主な症状は長期間続く咳で、特に新生児や乳児がかかると重症化するため予防接種が重要です。

現在、予防接種は生後2か月から開始（5種混合ワクチン：百日咳、破傷風、ジフテリア、ポリオ、ヒブ）され、標準的には6か月までに3回接種します。その後生後12～18か月に1回追加接種し、合計4回の接種で終了します。11歳で接種する2種混合ワクチンには百日咳の成分は入っていません（2種混合ワクチン：破傷風、ジフテリア）。

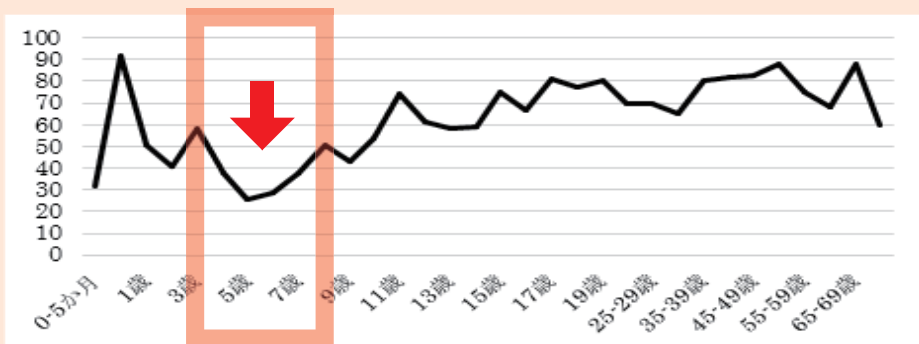
しかし、百日咳ワクチンの効果は4～12年で弱まってくることがわかってきました。その結果、ワクチンを4回接種しているにもかかわらず、5～6歳以降に百日咳にかかることがあります。

【症状と海外の接種】

学童～成人、妊婦さんが百日咳にかかっても重症化することは少ないですが、咳が長く続き、呼吸が苦しく咳で嘔吐することもあります。また、ワクチン接種が完了していない周囲の新生児や乳児に感染すると重症化し時に死に至ることもありますので注意が必要です。

海外ではこういった感染（新生児や乳児を守るため）を減らすために5～6歳、11～12歳で百日咳ワクチン（実際には3種混合ワクチン：百日咳、破傷風、ジフテリア）を接種しています。さらに青年や成人、妊婦さんに積極的に接種している国もあります。

● 感染防御に必要な抗体価の抗体保有率 ●



（図）百日咳毒素（抗PT）抗体 ≥ 10 EU/ml（感染防御に必要な抗体価）の抗体保有率（縦軸：抗体保有率（%））
*（7歳以降に抗体保有率が上昇しているのは自然に感染したためと考えられます）

【推奨する予防接種スケジュール】



日本小児科学会は、5歳以上7歳未満に3種混合ワクチン、不活化ポリオワクチンを、11歳から12歳に3種混合ワクチン（2種混合ワクチンの替りに）を任意接種（有料）で推奨されています。

【参考】「推奨する予防接種スケジュール」日本小児科学会（最新版2025年5月）

ワクチン	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳～6歳	11歳～12歳
5種混合	定期接種		1	2	3	4				5	6
3種混合	任意接種										
2種混合	定期接種										1
ポリオ	任意接種									5	

ご希望の方や、ご質問がございましたら、お気軽にご相談ください。

2025.7.21

